

2025 年度開催 第 13 回大谷大学文藝コンテスト

審査員からのメッセージ（小説部門）

一般社団法人言の葉協会 専務理事 宮脇一徳

「大谷大学文藝コンテスト」今年度は小説部門に 85 作品が寄せられた。いずれも魅
力いっぱいの力作で、読んでいて楽しく、気持ちが嬉しくなるような作品ばかりでした。
タイトルがうまい。「二号車はどこへゆく」「アイスクリーム座」「店内全品ニセモノで
す!」「クラゲの手帳」「雪解け」「犬と蛙と、鼠と鳶と」などなど。考え苦しみ推敲しな
がら、生み出した作品たち。完成した作品の内容を見事に表現した結果。いずれもうま
い。楽しい。ステキだ。読み終えてひとつひとつが輝いている。タイトルと内容がしっ
くりしない作品もありました。豊かな想像力、あふれる創造力、語彙力。普段の読書量
が作品にあらわれる。審査の先生方から、たくさんいろいろな厳しい意見、優しい評価
がよせられ、それぞれの作品に賞が決まった。審査が終わってホッとするとともに、す
べての作品にそれぞれ賞が決まり「命」がふきこまれる。ひとつひとつの作品が吹き込
まれた命で、輝きを増してきた。審査でとても苦労し、悩んだ後の充実した爽快さがあ
ふれてきた。たくさん苦労し、悩んで応募されたすべての皆さんとの不断の努力や苦しみ
に衷心より感謝するとともに、次回にも、創造性いっぱい魅力あふれるオリジナル作
品の応募を期待しています。